

「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議第2回会合

セッション①：大臣冒頭メッセージ

この度は、「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議第2回会合に御出席いただきありがとうございます。対面参加いただいた委員の皆様におかれては、美しい春が訪れている日本にお迎えすることができ大変嬉しく思います。

今、国際社会は、歴史の転換期にあります。国際安全保障環境も第二次世界大戦以降最も厳しく複雑な状況にあります。法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序は、パワーバランスの歴史的変化と地政学的競争の激化に伴い、重大な挑戦にさらされており、国際社会の連携がこれまで以上に重要になってきています。

核軍縮を巡る状況も一層厳しさを増していますが、このような中だからこそ、歩みを止めてはなりません。我が国として、核兵器国と非核兵器国の双方からの参加者がそれぞれの国の立場を超えて知見を共有し、自由闊達な議論を行う場として国際賢人会議を立ち上げたのは、まさにこのためです。

現在のような厳しい国際安全保障環境の下、現実的かつ実践的な取組を着実に進め、国際的な機運を高めることが重要です。岸田総理は、この信念に基づき、昨年の中核運用検討会議に日本の総理大臣として初めて出席し、「ヒロシマ・アクション・プラン」を提唱しました。現下の国際情勢を踏まえた上で現実的かつ実践的な取組を更に具体的かつ力強く推し進めていく上では、プロフェッショナルかつ建設的な議論が行われることが不可欠であり、国際賢人会議のような取組はこれまで以上に求められています。

本年7月末には、2026年の第11回中核運用検討会議に向けた第1回準備委員会が開催されます。昨年12月の国際賢人会議第1回会合では、中核の現状とこれに対する挑戦、軍備管理交渉の意義・挑戦といった諸点について活発な議論が行われたと承知しています。委員の皆様におかれては、第1回会合に続き、今回の第2回会合においても、今後の国際情勢の動向も見据えた上で、自由で忌憚のないプロフェッショナルな議論を更に深めていただくことを期待しております。

日本政府としては、国際賢人会議の委員の皆様の御議論も参考にしつつ、来月のG7広島サミットにおいて、「核兵器のない世界」の実現に向けた力強いメッセージを発信したいと考えています。また、私自身も、今月のG7外相会合の機会も活かしつつ、G7メンバーとの間で核軍縮の進展に向けた議論を深めていきたいと考えています。

最後に、今次会合の成功を祈念しております。